

広島県北広島町におけるアカアシチョウゲンボウの初記録

上野 吉雄^{1)*}・石井 秀雄²⁾

¹⁾ 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会・²⁾ 広島県立佐伯高等学校

First record of Amur Falcon *Falco amurensis* in Kitahiroshima town, Hiroshima Prefecture.

Yoshio UENO and Hideo ISHII

報告

アカアシチョウゲンボウ *Falco amurensis* は中国東北部などで繁殖し、アフリカ大陸南部で越冬し、国内では春秋の渡りの時期に迷鳥として渡来する（北沢 1996）。北海道、本州、佐渡、四国、九州、対馬、伊豆諸島、奄美諸島、琉球諸島などに渡来し、中国地方では島根、広島、山口などでの記録がある（日本鳥学会 2012）。

アカアシチョウゲンボウは、2020 年 5 月 4 日に、広島県北西部に位置する山県郡北広島町西八幡原（34°42'7"N, 132°10'14"E, 標高 788m）で確認された。アカアシチョウゲンボウは、北広島町ではこれまで確認記録がなく、本報告が、町内における初記録となる。

アカアシチョウゲンボウを確認したのは、水田脇のアカマツ *Pinus densiflora* 林上空である（図版 1-A）。2020 年 5 月 4 日、9:00 に、アカマツ林の上空を巡回飛翔するアカアシチョウゲンボウを確認し、写真撮影した（図版 1-B, C）。その後、10:00 まで飛翔し、付近の電柱に止まった。飛翔時に翼下面の降雨覆、腋羽が白く、風切が黒褐色であったことから、アカアシチョウゲンボウのオス成鳥であると同定した（大西・五百澤 2014）。その後、5 月 6 日にも現地調査を行ったが、アカアシチョウゲンボウは確認できなかった。

今回観察されたアカアシチョウゲンボウは、春の渡りの途中であると考えられ、八幡高原が、アカアシチョウゲンボウの渡りの中継地である可能性を示している。渡り鳥の保護のためには、繁殖地、越冬地に加えて、渡り経路と中継地を含めた生息環境の保全が求められており、新たな中継地の報告は保全に重要な情報となる。

現在、八幡高原周辺には風力発電施設があり、また、複数の計画が立案されている。北側の弥畝山から掛山にかけての尾根上に風力発電機 29 機が既に稼働している。既設の 29 機のすぐ南側の鷹ノ巣山から大佐山にかけての尾根上にも 17 機の風力発電機の建設が計画されている。さらに、西側の益田市匹見町道川の北側尾根上にも 15 機の風力発電機の建設が計画されている。これらの風力発電機の設置数の増加に伴って、アカアシチョウゲンボウなどの希少な渡り鳥が、風車に衝突死するバードストライクの増加も懸念されている。今後、開発や環境の変化が、アカアシチョウゲンボウなどの渡り鳥に与える影響について、継続調査が必要である。

謝辞

アカアシチョウゲンボウの同定へのご意見をいただいた広島市立みらい創生高等学校教諭の佐伯昌彦氏に心からお礼を申し上げます。

引用文献

北沢 善政（1996）アカアシチョウゲンボウ．（日高 敏~~編~~）日本動物大百科 3 鳥類 I：175．平凡社，東京
日本鳥学会（2012）日本鳥類目録 改定第 7 版．日本鳥学会，三田



A：アカアシチョウゲンボウの生息環境 2020年5月10日
B：アカアシチョウゲンボウオス成鳥 2020年5月4日
C：アカアシチョウゲンボウオス成鳥 2020年5月4日